馬琴作
豊國画

女郎花五色石臺

貳篇上

甘泉堂梓

へ13
3089
2

繪草帋店

曲亭馬琴作
上帙上
弘化五戊申春
上帙下
一陽斎豊国画
女郎花五色石臺二集

特 へ 13 3089 2

曲亭馬琴作

戊申春魁本

女郎花五色石臺二集弐

一陽齋豊國画

甘泉堂精刊

[illegible]

女郎花五色石臺第二集小序

邈に唐山の故事を思ふに虞舜ハ貴しと帝王なれども年五十にして猶親を慕ひぬ是をもて大孝とす人生れて四五歳まではたゞ乳を吸ひ母を慕ふのみ而已其成長るに及びて賢となく不肖となく嗜欲好憎あることを得ざる井が中に性の最美き嘗教を俟ずして行ひ良善なる故に孝義を門閭に表せられて名を揚げ親を顕す者間是あり不肖者ハ是を見て倒のみとしても羨ともせず一たび悪に染るに及びて放蕩不頼せざるとなし世に人の親たる者各其子を慈して愛て養ざるハなし。只克其子に教るハ稀也是故に顔氏家訓にいはく妻に教るハ初見に在り子に教るハ童年に在り其子の稚かりし時より理義賞罰を正くして教訓厳密ならざれバ後に至りて亦是を如何ともすること能ず其子の悪をだも知らざる故に愛に溺れて懲もとなく父子相剋する時に至るぞ。怨罵るとも甲斐やハある抑親の行ふるさむや己が慈に心あり漫に児戯の冊子を綴りてのみ彼惑ひを醒さまく欲も本編も亦なん前集行れて書肆復二集を求る者急なる因て婦幼に代筆させて稍その責を塞ぐとしかいふ。

弘化四年夏卯月上旬稿本成
五年戊申正月吉日發行

曲亭馬琴識

紙雛の
立待月や
三日乃暮
録先輩
師竹庵之句
老女五百崎
千葉介自胤

待乳姫
跡跟る
茅をと
環をとの那
汾郭雁
本編作者自題
変化般七

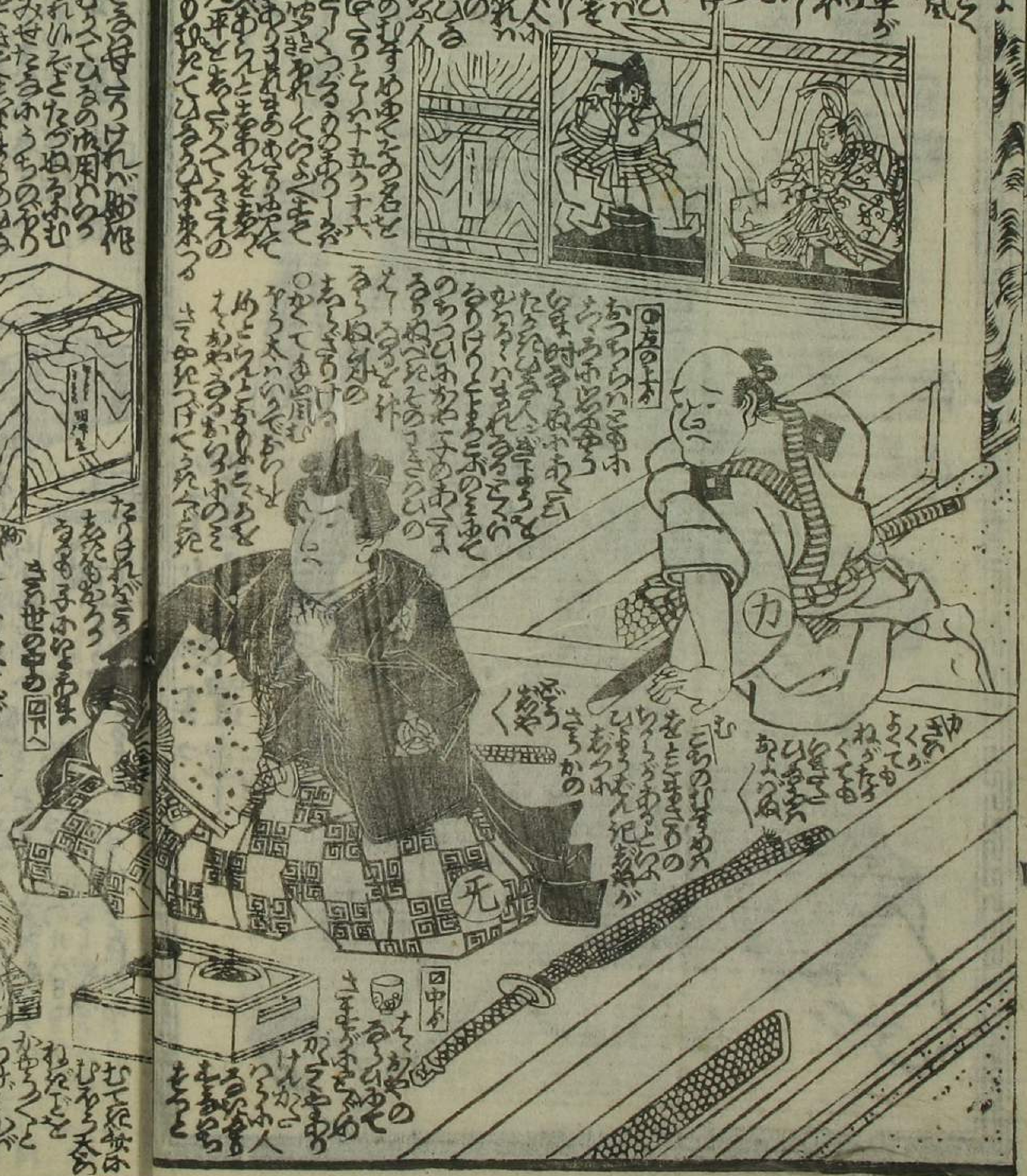
菅笠乃
意有郷や
田植時
遊仙庵主人題
浮木亀六
手嵐
无適斎
宗正

朝顔や
朝寐の床に
忘れ草
録故兄東岡舎之句
无適斎
妻
老蚊
炊婢桶鬟

折ても針の松乃ふる葉やとしの暮
録故妹女貞之句
賣針婦阿末曽
真崎弥四郎兵衛三登

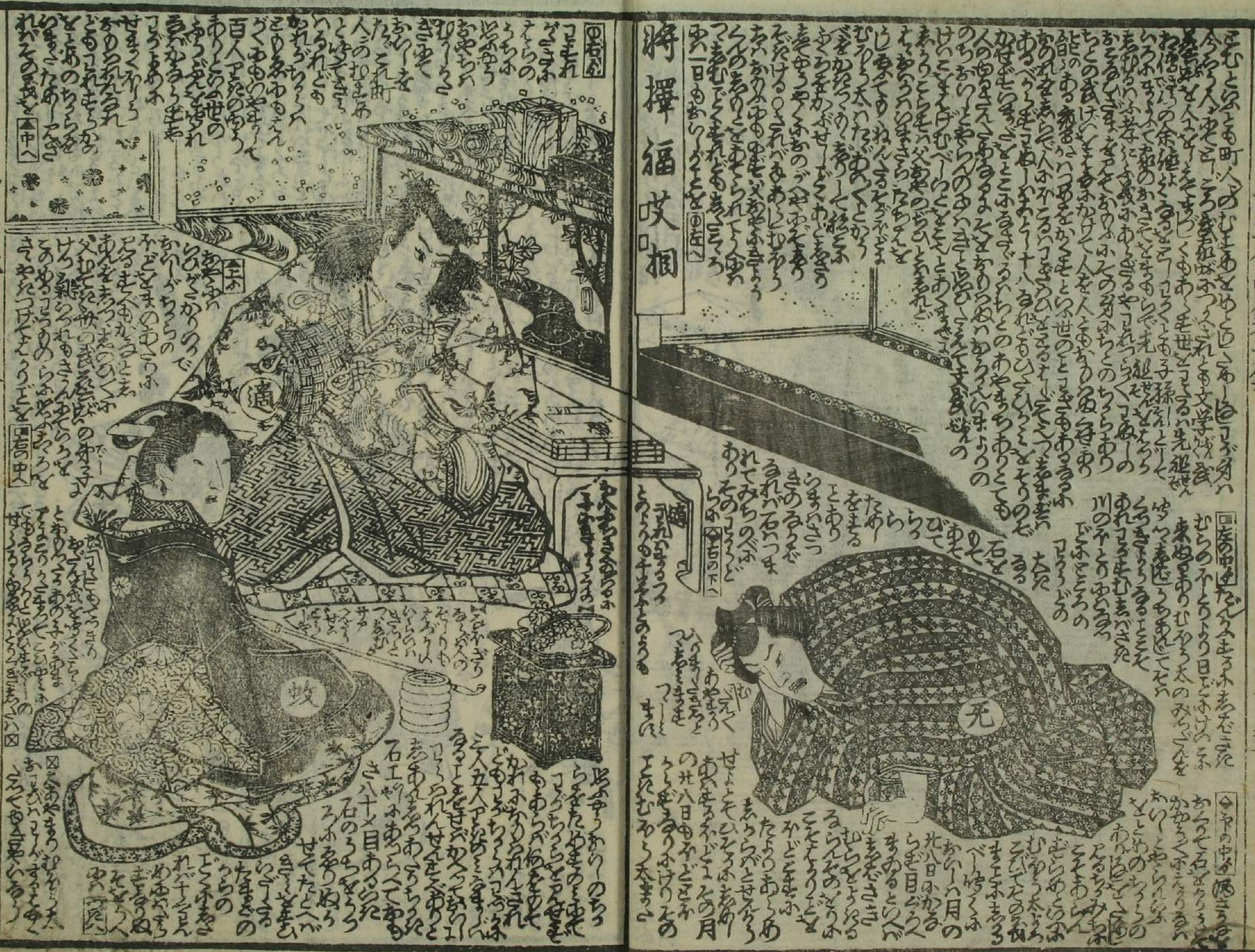
風やあら身ふ猛る野中乃女郎花
本編作者自題
夕人鏢市
田舎小孃置津

前へ合さよ ゆうくとどうく ホかの手山嵐 むかう大八 あのべ元平が つゞけよう おつてのかれ さきせうろう たまわけも あたちゝら あく生たけ しとらふを るすうくゞひ のとけざれバ その音を元を まらまつくわ さまぞりく人は なくぬるふかれバ つまこひ坂の やとうるゝひる 盗賊雁とふ人 形藩つぞのむすめゆてその名を 出ゝといひをうとて十五ウ子十六 むかう大八吹きあれしくてよくむを からんとまゝくつゞるのまわりーたが くされあのひわりまれまあわかの中やて のかせ元太ざわらんとしまわれんを起 つゞの日元平と考べてらてその ひる倉ふかもわれてひろの御来つる



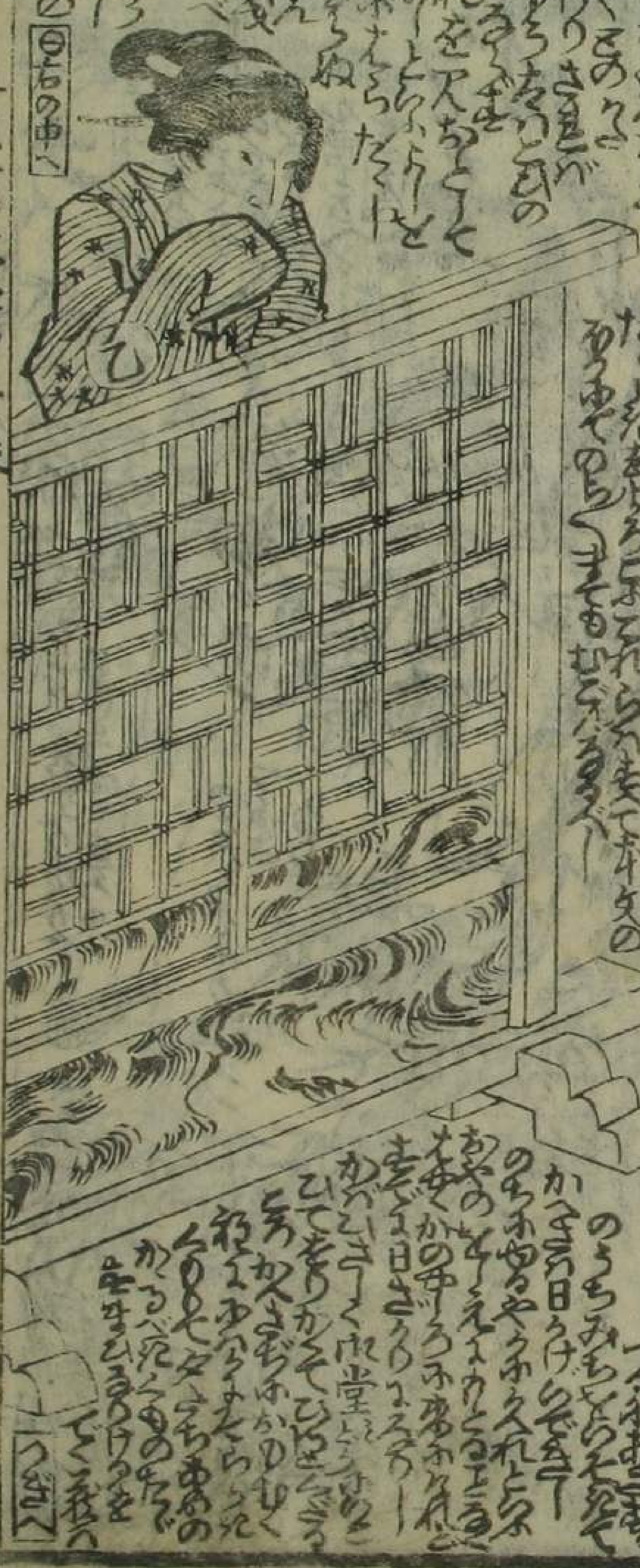
よしとあるゝ母ヽうけれバ娘雁 やがてむかうへてひろの所用にうつ あるをゆきされバそれとたづぬるよむ むかう大八みせたるおのふうのかれ ゆくえまありてさてはよりまうゝのひゐ 人形ざおをおわくかさ母て そのめくらたろうひ音ゆわと むしくおうまつて出よう とおめ娘るとへえぞまう ぬかつちのかみの事ゝいれて それやよりてみをもわのでく 雁ハそれそのことをおつれられて あるくるおてわわらねバおつゝれ やむとよ元のせれちあをちや これまで…そのそいで…む [illegible] （口右の中へ）

將擇縞吱相



八十八貫目と彫りつけさせて [illegible]

[illegible]



なすとつゞかに二三ねんまへてそのおとゝの[illegible]
かゝつらしくせん[illegible]
え[illegible]
[illegible]

[illegible]

つぎへ

万延辛酉新板目録

兒雷也豪傑譚（じらいやごうけつものがたり） 二十七編 二十八編 二十九編 柳下亭種員作 一勇齋國芳画

風俗淺間嶽（ふうぞくあさまがたけ） 十編 十一編 十二編 柳水亭種清作 一勇齋國芳画

女郎花五色石臺（をみなえしごしきせきだい） 八編 九編 柳下亭種員作 一勇齋國芳画

不思議塚小說櫻（ふしぎづかしょうせつざくら） 初編 二編 三編 柳水亭種清作 一勇齋國芳画

まへのつゞき　そのとき九秋へ妙作ふうちむろ込て おそろしきのふてく女の勇
とき世にあらず然でく義おとやらこのむすめもあかぎるふあすの
おのこれまつ日をもまづ子まるむかしのむかへぞきゝ

口右の下へ

口左の上へ

中右の下へ
中左の上へ
つぎへ

[illegible]

〽上の左へ つけられて[illegible]

[illegible]

[illegible]

〽右の下へ

[illegible]

冥助

[illegible]

星やの下へ
日やの足より
人の子
花

これによりの妙作ハ[illegible]

[illegible]

作者曰 かめどきゝ[illegible]

物語金飛梅[illegible]

[illegible]

かくしてそのゝち[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

口左の上へ
下へ
口右の中へ
上へ
つぎへ

馬琴作

豊國画

路孏代稿 浄書谷金川

家傳神女湯 婦人ちのみち一切の妙薬 一包代百銅

精製奇應丸 大包代金一朱 中包代百文 小包代五十文

熊胆黒丸子 一包代五十

婦人つぎ虫の妙薬 一包代六十四文

製薬本家 四谷隠士 瀧澤氏

弘所 元飯田町中坂下南側中程 たき沢氏

忠臣貞婦 伊呂波文庫 十一編 柳煙亭種久作 一勇齋國芳畫

黄金水大盡盃 十一編 十二編 為永春水作 一勇齋國芳画

假名反古 一休ばなし 十三編 十四編 十五編 柳下亭種員作 一勇齋國芳画

地本錦繪 紙問屋 甘泉堂 芝神明前 和泉屋市兵衛

戊申春新鐫

女郎花

五色石臺

貳集三

馬琴作

豐國画

芝神明前
三嶋町
和泉屋市兵衛版

豊国画
馬琴作
著集三
五ヶ己臺
文明堂

女郎花五色石臺 三集
曲亭馬琴作
下帙上
下帙下
弘化五
戊申春
一陽斎豊国画

馬琴作

遠笑奈郎武集四

豊國画

全四冊下帙四

甘泉堂寿梓

三のつゞき [illegible]

（四右の下へ）

（四左の上へ）

左の上へ

かまたちの日に
つゞき

つゞき

あゝどとまのびのぞくあのすこゞの中への
ぞくる松あれバこーあひもとゞげられてとれまかまゞ
すくまる上まゞん七ハごさ市とこも田あくらふか
より只今をさるゞうるぞうんそあ田をちゞうほ
あげてうがれてたずぬるーけりさればス
宿弥太清八用心ふうのふうれバその
夜のやゞゆでちうこもねむらぬ夜
[illegible]

[illegible]

さんすふとこゝろをもとめきづきて
やゝしばらくのうちをもうしなひど
あるそ文字はあるにはたがひに気
えてもえんこの死がいをたづねつ
とらくさんのあげて海へざんぶ
とうみにこれがためにそのまゝ死
なしくも今はそのこともなし死
ろとぞおもふこのたび万にひとつ
をたづねておもらば海へ入らんと
まるきを見たちまちにぞとどめを
ひれよおれがそれにちがひてあるに
のそのかたみはおらにわらなるこの
そでそのかたへもなにかあへながらよ
いよあわつまくにらえつきさへ
あのひもなげてうちにありける
ひとつ／＼のなかへふかくおりたるさ
とあくまでもよねて海をぞ入りよ
けらるしせられはまだくあわてゝ
とするをとゞすけあげるまゝおふ
るまれたるあとしかゞみさら
さすがかられいかにさすぶとりし
ろてひとりぶつくづくなかくふとる
あつきさ今ぞ／＼あまりこのちようちん
みぎりのかふふかえぬたれと
がゆられとひきまりふなを
たるふ気もなくらせて海へくも
あらぬまとまりかけり
○されば又幸藤か介此松所か清ハ

その夜丑のころ船は湊ものがた
やどのゆめにさゆるもしなくまで
きりくさびもの家のこちらまで
まつるのゆく〳〵をせおふまいり
ひさ市のおもめの身やどと
おそれさりちょうしちんと
しれども気もきさいろ
けりがつひにおもかう
えもそてこの身の入
のあも気もちんむすめの
かなしてちゝおりと
なぞもこさゝのさう
あなのかだめとそう
まてぞえるて
あはれけれ

去病はおさへてさなごろも
ことに人ゆるに市と共のおそ
のひきさまふ気をどくさぞみちら
うらべはなまたかりしおう
あるはすひとくもさちてまされ
どもすいとうよまをうちてあくも
あいくもかさなれば先ふかく
まれさうしぶ病おきこの毛に生
されのうちにかくのまぬるつき
あめうえのまたちいろ人のつかへも
よしべあまたゞとくりてありこにそらへ
われとておかからもちとの命ゆる

（次へ）

万延辛酉新板目録

兒雷也豪傑譚 二十七編 二十八編 二十九編 柳下亭種員作 一勇齋國芳画

風俗淺間嶽 十編 十一編 十二編 柳水亭種清作 一勇齋國芳画

女郎花五色石臺 八編 九編 柳下亭種員作 一勇齋國芳画

不思議塚小說櫻 初編 二編 三編 柳水亭種清作 一勇齋國芳画

○かくて[illegible]体仁弁玄清ハその日さ市とひそかく
ざふ[illegible]も人をとおざけて石くまの城ハ久しく[illegible]
[illegible]より[illegible]川まであり[illegible]
市の[illegible]でおきまどり人の[illegible]
[illegible]たまく[illegible]
[illegible]右の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]市と[illegible]
湯上[illegible]閑次[illegible]
[illegible]湯上[illegible]
[illegible]
[illegible]宝見に[illegible]大度[illegible]
君恩[illegible]体仁弁玄清ハ[illegible]

[illegible]市と[illegible]つるが[illegible]さて閑次へ[illegible]
人の[illegible]金五両[illegible]体仁弁玄清[illegible]七の[illegible]

つぎへ

ゆめほどもあるじなければこれをもあくりのめくらぞふくへて
きえらんのまへ死させぬやうにくぞめのこゝろ三百両をあて
あそかずまくらふおのぶびろうよしやうその使者あらし
とぞ云へて西ぐミへの次ふ見参しけんしてその
あくりのをあん上にさへ云次へあるひとるも
るをたかくりのくあゆ死をあえてこらふず
りうりようろこびてやがて弥佐郎去
清ふたいめんそのとき弥佐ら去
衆みつのりのひざを立てめでたう
まねうきはまよりのる在へき
うまそらの日ふかんやくそく
仕りるうくとひめもえるを
まゐらせんとてとも人あまた
くあぐらせて石くるまをぐ
わりしふかわるる川のやどりゆそ
らんあんやあそうけんきよふく
るところあのびらぞく入水まゝ
あそ会をなれりあふる
をも人らのおやまち見れ
どもふでよのことゆでも
もるーあの義ようあしく
かんとう事をうあきたて
まらんとあふよりしる
屋あやちやうれきめそひそ
うふつげたてまつるとうへ
次ゆ手でだふまうかめらさひ
めゐるーけれどもようきろ
よりたのミーとゆそめち氏
公の作るらねべまゐらせ

とてもさかり過まらそかの身へ
ことじあそてよあくぞのおくりのめ
かくまでふおかぐるとはをそへたてると
のへとあまふ香あんでさりげなく
弥佐郎去清ふうちむかうるく
のみそぐあもむきさまてろ絵の
のの在るるとやらんぶるうくさひ
めへ西へかふらんあんーて身まま
うりうさゝうがあらめをせんかさうるいと
あつらんますへの御へへこもかくも
これらよろしくきこえあげてん中
義あとの主従おぼへのちゝくまで
うしろやすくおりつくだし
あの義よろしくつくえ
よとて身のゐとまを
ころらせーふべ弥佐郎
去清わよろこびいけく
つゞの日石くるまふかくり来
まるいちてきとあへ屋敷よりとゞ
かーとの首尾はちをつげーさよ
よりつさ使やうる事ぞ死てあうるへ
あの義へあんびんふて人の為
肉さよろしとまーそるがさせの不
さ死又久六えん七があや姉根ちを
さがむるよふこのちぞぶるべーでえるとえ
七がよう死のうちへあのひやうふわかれらふ
あらそるもようんろえミつめりよの
義ぞふくろぬよとるさだけふかる
作ともふかるをえるがかさえでとを
右の中へ

その日つゝとつろゝくてくだんの二人をよびよせ
けりこれまでにも妙作れにゐる日より
七ヶ年の弟子なれどもとり〳〵の
たりけるに四五日まへとけるへ
うまくちらかる沢をけんぶつの
ねてゐる所かの地にあるうらんと
むかしまちられぬがれむら人をつかひ
とそあつちにたんうふ妻あるれどふ
ぶけるくあるまゝ老女がよふのれさ
よりつふゐて御用ありとてよぞ
せしが御どやらんとうぶろうのその
つかひとのもとよりかの城内郎によ
かめ六ぢきこれよりのけしの奴
あちこのよれのさきれば妙作よ
よびよせたのみしてそのかりいはまで
目より引かくらねどもこれ七の
めそてしそのまへのこのあ
ゆうけがやぶんにのあふのもよりくと
うめ六とのあうとも
とそ出てへよびよせこれ
かめ六どのもはや
とそざんとかまひ
ざい川をてむきく
きしまりんとこ
ゆかるへそうさひよ
よりさいとを
とうけるよう
とよなことな

つぼあらせて
をえるがかさ
そのかまそぞと
ざりのがてたん
せしのがかめ六と
妙作へかね
つぶーてあれ
まではおろの
るけれかあさ
るれをあふ
めてともにも
されにてさびの
芦尾がまよるを
ひ使えておのくその
子のふ芳ふ美をゆく〳〵と
のくとのと〳〵さのるまぐれ
やるせるらりけるされバこのとれ
妙作ハらのれされにうおかされて
えんぶめてかめ六と名へ改め
するにかん左衛門人のぶく
られべきがおしことを云ひ
ころゝるまかれへこの五六年
きされにまゝざ川のれとりゆそ
ふるるハらにころさる〳〵れ大名を
まくきれてそろまくえるちつる〳〵
するえるちくゆうりるりけるを
まのとされたがひにおゆびのぞく
かめ六さそのをりよかめのおくるひ
金二分を妙作よかりるるに
(四右の下へ)

日にまるのちでいる座の
がごハあそ〳〵へんるがかさ
そのかさえとへとえん七の
つぼにかむじつさんをとるが
ゆそ首尾をたてゝ
あとれそぞろよとやる
けりこのとれおちつく
まらの
(つぎへ)

言げ死ハ今ぞふつくされぜ見る人よに(ろ)く年へまゞしそのころ
又妙他ハ出家よしをあちちに赴かしくでく菩提を吊ひ子
ともにあるけきのうちのよろこびなる
五人々をらハさらえちり人くもひ
のむしろをひら死よぶ死のさろ死よ
えらひけり○るげ死の中ちうよろ
とうハそろすくられてつだのとりかそ
ぞあるの二周忌をきふ
あくる日妙他ハ
そのうへやよつハせん
のア方ら花とめの
寺でさとをさろ
びふあくりの人ぐ
かわ六をもまら死
せて年福を
後のさろ
死をまて
生る
去年それの月それの日ふ浪子息
金子百両入用られば家を
かの郡に妙他とよびて名を
そのあてうとうるにと
菩提ら中もまいさつして
きこえておっちでく

ろここゞもろさ六にならども絽せばのろてまふかてろに
生でよき八めの月日八まぐれど利死ぐふもあこされま
あまりのことよ
え利ぐさんをそろへてこさ
ぞ八家くら
むけし死
れてゆう
義ハよれ
きくろあ
ならし
まで浮世をさりて
せう文がめの
妙他うけ人八
するにより
京をむ
表ぶ
表面
めよ
せう
まと
と
ろ
た
六

[illegible]

回左の上へ

[illegible]

回下

[illegible]

回上へ

花
右の下へ
つぎへ

般
般
左の上へ

[illegible]作者[illegible]

家傳 神女湯 一包代百銅 [illegible]

精製奇應丸 大包代 金弐朱 中包代一匁五分 小包代五分

熊胆黒丸子 一包代五分 [illegible]

婦人つぎむしの妙薬 一包代 [illegible]

製薬本家 四谷 隠士 滝沢氏

弘所 元飯田町中坂下 たき沢氏

作者又云 [illegible]

馬琴作

路女代稿

浄書 谷金川

豊国画

忠臣 貞婦 伊呂波文庫 十一編 十二編 柳煙亭種久作 一勇斎国芳画

黄金水大尽盃 十一編 十二編 十三編 為永春水作 一勇斎国芳画

仮名 反古 一休ばなし 十三編 十四編 十五編 柳下亭種員作 一勇斎国芳画

地本錦絵 草紙問屋 甘泉堂 芝神明前 和泉屋市兵衛

繪草紙 [illegible]

女郎花五色石臺 弐編下

三世豊國画

甘泉堂梓